

令和5年度

運営に関する計画



令和5年4月

大阪市立南大江小学校

大阪市立南大江小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○昨年度も「いじめアンケート」を実施し、児童の実態把握といじめの早期発見の取り組みを行った。アンケートの結果から明らかとなったいじめ事案については、被害児童・加害児童の双方から個別に丁寧に聞き取りを行い、事実関係を明らかにしたうえで、当事者同士で話し合いをしたり、家庭と連携したりするなどし、いじめ事案の全てについて解決につなげた。いじめ事案については、学年打ち合わせや生活指導交流会で全体共有を行い、対応方法や指導方法を確認している。いじめの早期発見に向けては、普段から児童の様子を観察し、いじめにつながる言動があればその都度指導し、いじめを未然に防ぐように努めている。児童の他者との関係性を注視しながら「いじめアンケート」「相談申告機能」「心の天気」等も活用し、児童の実態把握といじめの早期発見に努めている。しかし、令和4年度のいじめ認知件数は121件であり、比率1000人に換算すると145人となり大阪市平均(183.6人)からは低い値となっている。「いじめはどの学校、どの学級でも起こり得る。」という危機意識を教職員一人一人が常に念頭に置きいじめの早期発見に努めるとともに、カウンセリング・マインドを持って児童への対応ができるよう研修を重ねるなど、取り組みを続けていく必要がある。

○令和4年度、新たに不登校になる児童の在籍比率が前年度(令和3年度)より増加し、不登校児童数は21名、在籍比率は2.53%となった。これは、大阪市平均(1.47%)を上回る値である。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響や保護者との分離が難しいケースなど不登校につながる様々な要因を考慮し、関係機関(スクールカウンセラーや区子育て支援室、こども相談センター等)とも連携を図りながら児童が不登校状態とならないよう取り組みを進めてきた。各学級においては、学級目標を設定し、定期的に振り返る活動を取り入れ、常に目標を意識させながら安心して学校生活を送れるようにしている。また、係や当番活動、委員会活動、学校行事等で児童が活躍できる場面を設定したり、友だちのいいところや頑張っていたところを発表したりして、お互いの自己肯定感を高め、安心できる教室づくりを進めている。しかし、不登校児童数が増加傾向となるなど、その効果は十分とは言えない面がうかがえる。今後も、不登校児童やその傾向が見られる児童に対して、学校に来づらい原因の究明に努めると共に、諸機関と連携しながら対応していくことが求められる。

○令和4年度、「自分にはよいところがありますか」の項目に対して、肯定的回答をしている児童の割合は、1年：90.8% 2年：85.6% 3年：83.4% 4年：87.0% 5年：77.7% 6年：71.2%であった。肯定的に回答する割合が上がった学年もあれば下がった学年もあった。また、高学年になると、肯定的な回答の割合が急激に低くなる傾向がうかがえる。年度当初と比べ、教職員から見て児童が「できた」「わかった」「人の役に立った」と思わせることのできる場面は増やすことはできているが、児童自身には「よいところである」とあまり実感できていないようであった。普段から児童のよいところを見つけて、声をかけたり認めたりするなどし、児童一人一人の自己肯定感を高められるような取り組みを継続して行うとともに、学校生活全般を通して「できた」「役に立った」と実感できるよう取り組みを工夫していく必要がある。

○これまで、児童の発達段階に応じて教材・教具を工夫し指導を進めたり、単元の特性に応じてICT機器を効果的に活用したりすることで、児童が自力で課題を解決できるよ

うに努めた。算数科では、週に1～2時間程度ティームティーチングによる学習を行い、苦手意識を持つ児童を中心に支援した。その結果、令和5年1月実施の児童アンケート「算数の学習はよくわかりますか」の項目において、肯定的に回答した児童は92.59%であり、1回目のアンケートと比較すると1.86%増加した。休み時間や放課後には個別指導を行う等、時間の確保に努めた。きめ細かく一人一人に向き合うことで、つまづきを早い段階で把握し、理解へと繋げることができた。

○令和5年1月に実施した児童アンケートの結果から、「11時まで(低学年は10時まで)に寝ている」と答えた児童は、1年79.9%、2年62.9%、3年51.3%、4年90.74%、5年83.33%、6年63.02%であり、前回のアンケートに比べ全校的に0.6%～10%近く減少した。月に1回、健康委員会の児童が各学級で睡眠に関するアンケートを実施し、放送で睡眠の大切さについて紹介する取り組みを行った。学校保健委員会では睡眠をテーマに、健康委員会の児童が啓発動画を作成し、全校で動画を視聴した。睡眠の大切さについて気づかせることで、ある程度理解は進んできていると思われるが、今後も児童や保護者の睡眠に対する意識が薄れないように、児童への指導や保護者への啓発を継続して行っていく必要がある。

○令和5年1月に実施した校内児童アンケートでは、「運動場で遊んでよい時間は、運動場でよく遊んでいますか」の項目で66.03%の児童が肯定的に回答しており、目標である60%を達成することができた。各学年で児童の発達段階に応じた指導を工夫したり、出前授業を実施し体を動かす楽しさを児童がより体感する機会を増やしたりしてきた。また、「鉄棒カード」「なわとびカード」「かけ足カード」などを活用したり、大縄記録会やかけ足週間など学校全体で体を動かす取り組みを実施したりした。令和4年度は、校舎の増築工事も終わり運動場の使用制限も解除され、様々な運動や遊びが可能となった。各学級では「みんなあそび」の時間を設定し学級の友達とのびのび活動することで、体を動かすことの楽しさを感じる機会を設けてきた。今後も、運動が苦手な児童に対して、体を動かすことが「楽しい」「心地よい」と実感できる取り組みをさらに工夫しながら取り組みを続けていくことが求められる。

○児童アンケート「1人1台パソコンを、ほぼ毎日使っている」の項目について「そう思う」と回答する児童の割合は、年度当初が39%、年度末が36%であった。使用に際し配慮が必要な児童もいるため、積極的に使わせることができず昨年度に比べ使用させる場面が減ってしまったことが考えられる。その他に、起動の遅さ、持ち帰りの不便さ、ネット環境の不安定さ等、教員・児童ともに環境によっては快適に使用できないことも活用場面が減ってしまう原因である。日常的には各学年の実態に応じて、様々なアプリケーションを活用した学習を実践してきている。また、「心の天気」も毎日入力できるようになってきている学年が多い。引き続き、「心の天気」の習慣化を進めるとともに各種アプリケーションは、ICT支援員の活用や校内での活用事例の共有を進めることで指導方法を模索していく。また、児童に対してICT機器の適切な使い方について指導を続けていく必要がある。

○教職員の長時間勤務に関する「基準1」を満たす教員の割合は、令和3年度の6月が34.2%であったのに対して、令和4年度の6月は48.9%となり、前年より大きく上回る結果となった。ワークライフバランスを意識し、業務の効率化や役割分担など、創意工夫しながら時間外勤務時間の短縮に努めていく。

○保護者アンケートにおいて、90%以上が「学校は家庭と協力して子どもの教育に当たっている」と肯定的に答えている。日常的な児童の様子や、学校行事の様子を保護者が知ることに「学校ホームページ」や「各種お知らせ」が十分役立っていると考えられる。日々の担任と保護者とのコミュニケーションも概ね良好であると思われる。引き続き、保護者との信頼関係の構築に努め、学校の教育活動に理解が得られるように適切な情報発信とコミュニケーションを行うように努める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和7年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和4年度当初よりも5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より1ポイント減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内児童アンケートの「日々の授業や学校生活の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、令和4年度当初よりも5%増加させる。
- ・ノー残業デーについて、週1回以上設定し、その日は定時閉庁とする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合が、令和4年度よりも10%増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・ 令和5年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、年度当初より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を43%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 校内調査「自分の考えを友達に伝えることができましたか。また、友達と交流することができましたか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・ 令和4年度末の校内調査の「運動場で遊んでよい時間は、運動場でよく遊んでいますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

【ICTの活用に関する目標】

- ・ 令和5年度末の児童アンケートの「一人一台パソコンを、ほぼ毎日使っている」の項目について、「そう思う」と答える児童の割合を、年度当初より増加させる。

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を、前年度よりも改善させる。

学校の年度目標

- ・学校HPの更新や授業公開等を進め、令和5年度末の校内保護者アンケートの「学校は、授業参観など教育活動を広く公開し、ホームページなどで情報発信に努めている。」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、年度当初より増加させる。

大阪市立南大江小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83% 以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、年度当初より増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>全児童対象に、いじめ・問題行動等の校内調査を実施し、その結果から解決すべきすべての事象について適切に対応する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内調査を学期に 1 回実施し、解決すべき事象について 100% 個別指導を行い、対応する。 	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級目標を定め、その達成に向けて学級全員で協力して活動することにより、それぞれの児童が自己肯定感を高め、安心して過ごせる集団づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度末の校内調査において前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(前年度 1.3%) 	
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>全教育活動を通して児童が「できた」「わかった」「人の役にたった」と思えるようなめあてを設定し、指導・支援を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5 年度末の校内児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、年度当初より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

大阪市立南大江小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 43% 以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78% 以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 65% 以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内調査「自分の考えを友達に伝えることができましたか。また、友達と交流することができましたか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 50% 以上にする。 ・ 令和 5 年度末の校内調査の「運動場で遊んでよい時間は、運動場でよく遊んでいますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 65% 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数の授業でのティームティーチングの実施、国語および算数の授業でのデジタルドリルの活用、放課後の個別学習を計画的に推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる 	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科の授業で体を動かすことの楽しさをより実感できるよう指導内容を工夫する。また、学級での「みんな遊び」等の時間を設定し、運動場で体を動かす機会を増やすようにする。</p>	

指標	
・令和5年度末の校内調査の「運動場で遊んでよい時間は、運動場でよく遊んでいますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立南大江小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の児童アンケートの「1人1台パソコンを、ほぼ毎日使っている」の項目について、「そう思う」と答える児童の割合を、年度当初より増加させる。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を、前年度よりも増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新や授業公開等を進め、令和5年度末の校内保護者アンケートの「学校は、授業参観など教育活動を広く公開し、ホームページなどで、情報発信に努めている。」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、年度当初より増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>1人1台パソコンを児童がいつでもすぐに活用できる環境を一層整える。そのことにより個別最適な学び・協働的な学びを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の校内児童アンケートの「1人1台パソコンを、ほぼ毎日使っている」の項目について、「そう思う」と答える児童の割合を、年度当初より増加させる。 	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>放課後の時間を確保するために、各学年や校務分掌の中で業務内容の細分化やDX化をすすめ、スクールサポートスタッフと連携して、教職員がよりやりがいを持つようにしながら、勤務時間の短縮を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する「基準1」を満たす教員の割合を、前年度よりも増加させる。 	
<p>取組内容③【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校は、授業参観など教育活動を広く公開し、ホームページなどで情報発信に努め、日常的なコミュニケーションも行いながら理解・協力を得るようにしている。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の保護者アンケートの「学校は、授業参観など教育活動を広く公開 	

し、ホームページなどで、情報発信に努めている。」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を年度当初より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	